

IV 海外学生派遣  
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007681">https://doi.org/10.14945/00007681</a>

## IV 海外学生派遣

熊井 浩子／松田 紀子

国際交流センターでは、在校生の海外留学を推進するため、『静岡大学からの海外留学』（海外留学に関するガイドブック）を作成・配布するとともに、「静大からの海外留学」（海外留学パンフレット）を大学教育センター開講の英語授業で、夏季短期留学（朝鮮大学校サマースクール）のチラシを大学教育センター開講の韓国語授業でそれぞれ配布するなどの広報活動を行っている。併せて、過去の留学プログラム・イベント等の参加者のメーリングリストおよびセンターのホームページで、募集情報やイベントの紹介等も行っている。

派遣に関する主なイベントとしては、海外留学フェア（留学説明会）、夏季短期留学説明会やTOEFL説明会・勉強会などを開催し、留学についての情報提供や語学学習のサポートを行っている。さらに、国際交流課（静岡キャンパス・共通教育A棟4階）及び国際交流センター資料室（浜松キャンパス・合同棟1号館3階）に、各国別の最新の資料を提供する棚を設置し、派遣留学やTOEFLに関する情報提供を行うほか、センター及びチームで留学相談も適宜実施している。

また、交換留学に関しては、選考および留学前指導に関し、いくつかの改善を行った。主な派遣プログラム及び活動は以下の通りである。

### 1. 大学間協定に基づく交換留学

平成24年度には以下の10大学24名の学生が大学間協定に基づく交換留学生として選考された。そのうち2名は諸般の事情で辞退したため、派遣されたのは22名であった。括弧内は、当該学生の所属学部を表す。留学開始時期は23年度後期（韓国）から24年度前期にかけてである。

アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校 3名（人文学部、理学部各2名）

カナダ・アルバータ大学 3名（人文学部1名、理学部2名→うち1名は辞退）

フランス・ナンシー第2大学 2名（人文学部2名）

ドイツ・イエナ応用化学大学 1名（工学部）

スロバキア・コメニウス大学 3名（人文学部1名、教育学部2名→うち1名は辞退）

チェコ・マサリク大学 2名（教育学部・理学部各1名）

ブルガリア・ソフィア大学 1名（教育学部）

中国：浙江大学 4名（人文部4名）

：南京大学 2名（人文学部1名、農学部1名）

韓国：慶北大学校 3名（教育学部3名→うち1名は諸般の事情により途中帰国）

近年、交換留学は派遣者数、派遣大学ともに増加傾向にあり、それ自体は喜ばしいことではあるが、それに伴う質の保証が24年度派遣に向けての課題となっていた。このため、23年度後期には、応募・選考時に関しては主に以下の3つの改善を行った。

- 語学能力基準の設定
- 希望調書の改定
- 選考のための面接を導入

まず、これまでは、派遣先大学により TOEFL のスコアなどの語学力の基準が示されている場合以外は特に語学力の基準は設けていなかったが、留学先での勉学生生活が可能な語学力の基準を大学ごとに推奨というかたちで明記した。

また、希望調書を大幅に改訂したことで、単に「留学したい」という意欲だけでなく、学生が明確な目的をもって留学先について十分に情報収集を行い、留学計画を立てた上で指導教員の承認を得て応募することが要求されるようになった。

また、面接においても留学計画や交換留学生の役割、必要な留学準備等について質問し、問題のある場合には定員枠内でも「不合格」にした例も少数ながらあり、交換留学生としてよりふさわしい学生を選考できるようになったほか、「保留」という形で、今後の準備の状況によって改めて合否を決めるという柔軟な対応も可能になった。また、学生自身も自分の課題に気がつき、その後の留学準備に活かせるようになったという効果もあった。

なお、これまでは留学生や外国籍学生の応募の可否については曖昧だったが、これらの学生の応募も可能であることを募集要項に明記した。ただし、留学生は母国の大学に留学することはできないという条件は付いている。

選考後には派遣前に全3回の留学前ガイダンスを実施し、留学前の準備や危機管理等に関する講義、留学経験者や協定校からの留学生も招いたディスカッション等を行うことにより、学生自身が主体的に準備に取り組めるような環境を整備した。

加えて、保健センターと連携し、留学中に心身の健康に関して問題があった場合には、直接保健センターの医師に連絡が取れる体制ができた。修了後の計画書の提出を義務づけたことも改善点の一つである。留学中には以前から2週間に一度報告書を提出させ、留学生生活の状況や問題点を把握しているが、これと併せて留学中の学生に対してより細かなサポートが可能になったと言える。

## 2. ILUNO(Intensive Language Program at the University of Nebraska at Omaha: ネブラスカ大学オマハ校集中語学プログラム)

平成24年度アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校における集中語学プログラムにILUNOに13名(教育学部7名、人文社会科学部3名、理学部・工学部・創造科学技術大学院各1名)が参加した。そのうち、8名は協定に基づく96週分の授業料免除枠での参加である。なお、2月22日(水)に渡航前ガイダンスを実施した。

また、募集期間に余裕をもたせより多くの学生が応募できるよう平成25年度募集に先立ち、新たに、夏休み前にILUNO説明会を実施し(7月19日)、情報提供に努めた。

## 3. 平成24年度夏季短期留学

8月の1-2週目から3週間、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校(参加者13名)、カナダ・アルバータ大学(参加者19名)、韓国・朝鮮大学校(参加者6名)の3つの夏季短期留学が実施された。センターでは夏季短期留学ガイドブック及び引率業務の手引きの改訂

を行うとともに、参加者を対象に6月2日、23日及び7月7日に3回の説明会を実施した。説明会では、スケジュールや手続き・準備等の説明及び留学経験者からのアドバイスや海外安全のための知識等についての紹介を行った。7月19日には静岡キャンパスで結団式を実施した。また、アルバータ大学については、募集に先立ち4月18日にアルバータ大学関係者が来訪して説明会を実施した。

このうち、ネブラスカ大学オマハ校については、昨年度に引き続き日本学生支援機構「留学生交流支援事業（ショートステイ・ショートビジット）」により奨学金8万円の給付があり、朝鮮大学校については、今年度から日本の複数の協定大学からの参加学生に加えて、朝鮮大学校学生を正規の参加者とする International Summer School として実施された。

夏季短期留学参加者は語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行など盛りだくさんのプログラムを満喫して無事帰国した。

なお、ネブラスカ大学及びアルバータ大学の夏季短期留学については、全学教育科目の英語科目「英語海外研修A」「英語海外研修B」として単位化され、24年度入学者はこの科目を取得することができた。ネブラスカ大学・アルバータ大学参加者のうちの23年の以前の入学者および韓国サマースクール参加者については、従来どうり各自の申請にもとづき、全学教育科目の英語科目・韓国語科目（2単位）を認定した。

#### 4. 嶺南大学校日本姉妹大学協定短期文科研修プログラム

韓国・嶺南大学校において、平成24年9月9日（日）から9月16日（日）まで短期招聘プログラムが実施され、学生1名（情報学部）と引率として国際交流センター運営委員会委員1名（教育学部・森野教員）が参加し、他の協定大学学生とともに語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行等、充実した研修を行うことができた。

#### 5. インドネシアガジャマダ大学

インドネシア・ガジャマダ大学において、平成24年7月1日から7月14日まで「Alternative Education（代替教育、非伝統的・非主流的教育）」をテーマに掲げた国際サマースクール DREaM が開催され、本学から2回目の参加となる今年は人文社会科学部から4名が参加した。複数の国からの参加者とともに、講義受講やインターンシップ等の研修を行った。センターでは、危機管理の観点から、事前ガイダンスを実施した。

#### 6. 海外留学フェア

平成23年度後期は10月20日（木）に静岡キャンパス、10月27日（木）に浜松キャンパスで、24年度前期は4月19日（木）に静岡キャンパス、4月26日（木）に浜松キャンパスで実施した。前後期ともに第1部では全体的な説明及び留学経験者によるパネルディスカッションを行い、第2部ではプログラム・協定校ごとにブースを開設し、留学生を交えて個別相談を行った。参加者は23年度後期静岡キャンパス52名、浜松キャンパスは2名と少なかったが、24年度前期は静岡キャンパスは48名と横ばい、浜松キャンパスでは12名と増加が見られた。

## 7. TOEFL 説明会及び TOEFL 勉強会・TOEFL ITP（団体受験）

海外派遣推進の一環として23年度前期には5月10日（木）に「TOEFL 日本事務局」国際教育交換協議会 CIEE の西川由美氏を招いて TOEFL 説明会を開催するとともに、6月14日、6月28日（静岡キャンパス）、6月7日（浜松キャンパス）（すべて木）に大学教育センター教員の支援を受けて勉強会を実施した。さらに、7月12日、10月11日（ともに木）（静岡キャンパス）、7月14日・10月13日（ともに土）（浜松キャンパス）に ITP（TOEFL 団体受験）を実施した。なお、この ITP のスコアは当面、アメリカ・ネブラスカ大学交換留学の際の正式な TOEFL のスコアとして認定されている。

## 8. VSCP（Visiting Students Certificate Program）説明会実施

カナダ・アルバータ大学で行われている語学研修と専門科目の単位取得を組み合わせたプログラムである VSCP の説明会がアルバータ大学 Gretchen Phillips 氏を迎えて平成23年11月28日（月）に開催され、8名の学生が参加した。

平成23年度後期から24年度前期にかけての VSCP による留学者は7名（23年度開始5名、23年度開始2名）である。これまで、アルバータ大学連絡教員がサポートをし、同意書にサインをする形で応募者を把握していたが、毎年一定数の学生が参加して成果を上げていることから、24年度参加の学生から、派遣留学に準ずる形で、国際交流課で希望調書を取りまとめ、国際交流センターとして対応することになった。

## 9. 協定校動向

夏季短期留学および VSCP の ESL プログラムを担当しているカナダ・アルバータ大学 Faculty of Extension の100周年記念イベントが4月19日にカナダ大使館で開催され、静岡大学国際交流関係者が招待されるとともに、アルバータ大学連絡教員である国際交流センター熊井教員が“Global Leader in Community Engagement”として表彰を受けた。

## 10. 刊行物

- 学生交流報告書
- 「静岡大学からの海外留学」（留学ガイドブック）
- 「静大からの海外留学」（留学パンフレット）
- 夏季短期留学ガイドブック